

人権だより

No. 220

2015. 11. 20

宇和島南中等教育学校
人権教育部



傘に教わる

2学年主任 千葉 典子

カサ立てに無造作に置かれた傘。雨が降らなければ思い出されもせず、ずっと放置されたままの傘。それらにも、いろいろな工夫や思いが詰まっていることを、近頃再認識しました。

私が小学生の頃（何年前!?!）は、傘と言えばツマミをぐっと押して両手で開くものが一般的だったように思います。でも今は、片手で開くことのできるワンタッチのものがほとんどになりました。（百円均一のお店で買ったものでさえ、です。）それどころか、閉じるときもワンタッチでできるもの、片側だけ大きく張り出しているもの、傘の一部だけが透明になっているものなど、驚くほどたくさんの種類の傘が出回っています。「必要は発明の母」と言われますが、それらの変わり種傘はそれぞれ、手の不自由な人でも使いやすいようにするため、車椅子に乗っている人と押す人が兼用で使えるようにするため、そして、耳の聞こえない人が前を見ることができるようになるためなど、それぞれ切実な思いが工夫となって表れたものだったのです。

最近、ユニバーサルデザイン・バリアフリーという言葉をよく聞きますが、それ以前から日本には「共用品」という考え方があって多くの便利なものがたくさんの人々の知恵と工夫によって作られてきました。傘はほんの一例ですが、不自由や使いづらさを感じる人のことを知ろうとし、その声に耳を傾けて真摯にもものを作ろうとする意欲があってこそ、生まれたものだったのでしょうか。

最初に声を発したのは、障がいがある方であったかもしれません。でもそのおかげで、たくさんの人たちが恩恵を受けているのです。便利なものを作ってくださった方、そのアイデアを出してくださった方たちに感謝するとともに、もっともっと私たち一人ひとりが他者の立場になってよりよいものを求めているならば、どんなにか快適な生活ができることでしょうか。そして、どんなにか心豊かに暮らせることでしょうか。

朝早く、四時台に目が覚めてふとつけたテレビの番組から、この傘のことを教わりました。「早起きは三文の得」を実感するとともに、改めて自分の周りにあるものをじっくりと見つめ、一つ一つを大切にし、人の心も大切にしたい。そう思いました。



人権委員の声

ユニバーサルデザイン・バリアフリーという考えの取り入れられた物が自分の身の回りにたくさんあるなということを、改めて実感しました。障がい者だけでなく、自分たちも便利に使える物があります。これからも、こういう便利な物を作るために知恵を出している人、作っている人に感謝しながら生活していきたいなと思います。
(2年1組)

最近の物は、どんな人でも使いやすく作られていて、考えた人に感謝したいです。これからも自分のものは自分で管理して、物を大切にしていきたいです。
(2年1組)

たくさんの人たちのアイデアから作られた、私が当たり前のように使っている物を大切にしたいと思いました。そして、物だけではなく、私の周りの人の心も、私の心も大切にしたいと思いました。
(2年2組)

私はこの文を読んで、忘れられた傘を思い出しました。これらの傘は、使う人が使いやすく便利であるように、とたくさんの人がいろいろな工夫を重ねて作られたのに、私たちは、そのありがたさを忘れていたと思いました。傘以外にもたくさんあると思います。私はこれらを大切にしていきたいです。また、ほかにも日常の中にどのようなものがあるか、目を向けていきたいです。
(2年2組)

私たちが普段当たり前のように使っている物や場所は、たくさんの人たちの工夫や思い、アイデアが詰まっているんだなと思いました。本来、障がいがある方や高齢者のために工夫され開発された便利な物を「当たり前」のように使っているのだから、この考えを改めて、これからは一つ一つの物を大切に、感謝しながら使いたいと思いました。
(2年3組)

傘には手の不自由な人でも使いやすい工夫がされていることに、改めて気付くことができました。
(2年3組)

僕は、この文章を読んで、ユニバーサルデザインが大切だと思いました。この文章にも、その一例の傘について書かれています。僕は、傘の一部が透明である理由が分からなかったけど、耳の不自由な人が前を見ることができるようにするためと知って、とても驚き、すごいと思いました。こういうことが、たくさんの人々の役に立っているのだと感じました。
(2年4組)

私はこの文章を読んで、以前よりユニバーサルデザインやバリアフリーという考えが世間に広がっているんだなと感じました。この間英語の授業で、大きいトイレや広い出入り口、ノンステップバスなどのユニバーサルデザインについて学びました。多くの人々の切実な思いが工夫となって表れた物が身の回りにたくさんあることに、改めて気付くことができました。便利な物を作ってくださった方、アイデアを出してくださった方への感謝を忘れず、他者の立場になって物事をじっくり見つめ、一つ一つを大切に、人の心を大切にしていきたいです。
(2年4組)

私にとっては、両手で開く傘から、ワンタッチで開ける傘になったというのは、両手が荷物で塞がっていたとき、「あー、楽だな」と思うか思わないか、そういう程度の「小さな変化」でした。しかし、私にとっての「小さな変化」が、体の不自由な人たちにとっては、一日の生活を大きく変化させているということを知りました。今回これを読んで、私も自分だけでなく、他人の立場になって行動したり何かを考えたりしようと思いました。そして、全ての人が快適に暮らせるよう、「小さな変化」を増やしていきたいです。（4年1組）

これを読んで、自分が気付かないだけで、身近な物にいろいろな工夫がされているのだなと思いました。そして、これからは周りに気を配りながら行動をしたいなと思いました。（4年1組）

普段、当たり前のように使っている物のそれぞれに、たくさんの人のいろいろな思いが込められていることを知って、もっと大切に使うことや感謝の気持ちを持ちたいと思いました。人の心も身の回りの物も、同じくらい大切にしていきたいです。（4年2組）

私たちが様々な人の立場になって考えることの大切さを強く感じました。目の不自由な人、耳の不自由な人、足の不自由な人など、それぞれの立場を理解し、自分の力でできる支援をしたいと思いました。（4年2組）

先生の話を読んで、普段身の回りにある物がたくさんの人の知恵によって作られているということを知りました。傘だけに絞っても、様々な種類があって、アイデアを出してくれた人や、作ってくれた人に感謝しようと思いました。これからは、周りの物をこれまで以上に大切にしよう心掛けていきたいです。（4年3組）

この文は、身近にすぐある傘について深く語られています。読むと、特に最初の部分の、放置されたままの傘に、何とも言えない悲しさのようなものを感じました。一つ一つの物には、様々な工夫がなされていますが、こうやって言われるまでは、なかなか気付かないものだなと思いました。様々な物事にじっくり目を向け、いろいろ発見し、感心し、感謝したいです。（4年3組）

普段、当たり前のように使っている物。自分のものだから、どんな使い方をして自分勝手だと思っても自分の勝手だと思える人もいるでしょう。しかし、物は様々な人の思いが積み重なってできたものなのです。その人の「心」を理解することで、また違ったものの見方をすることができるのではないのでしょうか。（4年4組）



（5年1組）

人権週間について

国際連合は、1948年(昭和23年)12月10日の第3回総会において、世界における自由、正義及び平和の基礎である基本的人権を確保するため、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、世界人権宣言を採択したのに続き、1950年(昭和25年)12月4日の第5回総会においては、世界人権宣言が採択された日である12月10日を「人権デー」と定め、全ての加盟国及び関係機関が、この日を祝賀する日として、人権活動を推進するための諸行事を行うよう、要請する決議を採択しました。

我が国においては、法務省と全国人権擁護委員連合会が、同宣言が採択されたことを記念して、1949年(昭和24年)から毎年12月10日を最終日とする1週間(12月4日から同月10日まで)を、「人権週間」と定めており、その期間中、各関係機関及び団体の協力の下、世界人権宣言の趣旨及びその重要性を広く国民に訴えかけるとともに、人権尊重思想の普及高揚を図るため、全国各地においてシンポジウム、講演会、座談会、映画会等を開催するほか、テレビ・ラジオなど各種のマスメディアを利用した集中的な啓発活動を行っています。

本年度の「第67回人権週間」では、啓発活動重点目標「みんなで築こう 人権の世紀 ～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～」をはじめ、17の強調事項を掲げ、啓発活動を展開することとしています。

愛媛県の「差別をなくする強調月間」について

平成27年11月11日(水)から12月10日(木)までの1か月間は「差別をなくする強調月間」です。愛媛県では、同和問題をはじめとするあらゆる差別の解消と人権が尊重される社会づくりに向け、この期間に各種啓発事業を実施し、県民一人ひとりの人権意識の高揚を図ることとしています。

上記の文章は、法務省及び愛媛県庁のウェブサイトから引用しています。

☆ 来月4日からは、「第67回人権週間」が始まります。

☆ 現在、愛媛県では「差別をなくする強調月間」です。